

カーボン製短下肢装具「トーオフ」ファミリー



医療従事者向け インストラクション

注意事項

トーフ製品をご利用の前に必ずお読み下さい。

	注意！ 熱硬化性ハイブリッドコンパウンド材です ● 熱加工しないで下さい。 ● 除圧をする際には専用のソフトキットをご利用下さい。 製品をグラインド、トリミング加工する場合 ● 作業時はゴーグル、防護マスクを着用し、目、鼻、口を保護して下さい。 ● 本製品の芯材部や外側支柱部はグラインド、トリミング加工しないで下さい。 ● グラインドする際に、過度に熱を持たせないで下さい(最大 100℃)。
---	--

- 本製品はお一人の患者様に対してのみご使用下さい。同一製品を複数の方で使用しないで下さい。
- 本製品は義肢装具士により患者様の身体への適合を行い納品して下さい。
- 視覚障害や知的障害また下肢感覚不全等がある場合は、細心の注意をしてご利用下さい。
- 本装具装着により患者様の身体能力に変化がある事をご指導下さい（例：車の運転等）。
- 製品に同封される取扱説明書（ユーザー用）を必ず患者様へお渡し下さい。
- 取扱説明書（ユーザー用）をご理解頂くことは大変重要です。装具と接する肌の状況に異常が無いか毎日確認するようご指導下さい。もし、異常を感じた際には直ちに使用を中止し、担当の医師または義肢装具士に連絡するようご指導下さい。
- 本書に書かれていないカスタマイズは患者様の責任のもと行って下さい。
- 本製品を廃棄する際は、地方自治体の条例に従って下さい。

保証

取扱説明書等の注意書に従った正常の使用状況で本製品が破損した場合が保証対象となり、ご購入日より1年の間、2回まで交換対応致します。

目次

適応と禁忌	4
はじめに	5
患者様の評価	6
STEP1 製品の選択方法（製品の安定性と患者様のニーズによる選択）	7-8
STEP2 サイズの選択方法（患者様の諸条件によるサイズ選択）	9-10
STEP3 足底装具との併用例	11
STEP4 靴の選択方法と踵の高さ	12
STEP5 適切なアライメント	13
STEP6 近位関節のコントロール	14
STEP7 適合	15
STEP8 患者様へのご指導	16
糖尿病足病変	16
前足部切断	17
装着後の歩行評価	18
製品ラインナップとサイズ表	19

適応と禁忌

イプシロン、トーオフ、ブルーロッカーは背屈筋力低下をサポート、またプッシュオフを補助します。

キディゲイト、キディロッカーは成長期の足関節をできるだけ正常な可動域をもたせながらサポートします。

適応

イプシロン、トーオフ、ブルーロッカー：

脳卒中、多発性硬化症、ポストポリオ、筋ジストロフィー、脊髄損傷、外傷性脳損傷、ギランバレー症候群、シャルコー・マリー・トゥース、脊髄髄膜瘤、神経障害、脳性麻痺による下垂足をサポートします。

トーオフ、ブルーロッカー：

後脛骨筋腱機能不全症や足趾切断。ブルーロッカーはショパール程度までの前足部切断に対応します。

キディゲイト、キディロッカー：

つま先歩き等の異常歩行、二分脊椎、脳性麻痺、筋ジストロフィー等による軽度のクラウチゲイト、髄膜瘤による下垂足をサポートします。

禁忌

イプシロン、トーオフ、ブルーロッカー	キディゲイト、キディロッカー
・潰瘍がある場合	・ROM 制限がある場合（5度の背屈が必要）
・浮腫がある場合	・足関節拘縮がある場合
・近位関節の重度不安定（大腿四頭筋痙縮、膝O脚、X脚、反張膝）がある場合	・大腿四頭筋痙縮がある場合
・重度の痙性がある場合	・膝関節がO脚、X脚で固まっている場合
	・足関節が外反、内反で固まっている場合

制限

足底装具やウエッジを使用しても反張膝になる場合は、トーオフ、ブルーロッカーと併用するCOMBOで対応できることがありますので、ご検討下さい。詳しくはwww.allardint.comをご覧ください。

注意

適切な製品選択、フィッティング、カスタマイズを通じ、それぞれの患者様に合った使用判断を行い、適合納品、患者様へのご指導を行い、リスクを最小限に抑えるよう注意を払う必要があります。

はじめに

本製品は完全なる既製品 **AFO** ではありません。本製品は患者様個々に合わせ、本書ガイドラインに沿ってカスタマイズする必要があります。

以下のような特徴があります。

- A) 生体力学的な正常歩行動作を阻害しません。
- B) 踵接地時にフットスラップを抑えます。
- C) 立脚中期に前後及び側方の安定性を向上します。
- D) 立脚終期に前方への推進力を補助します。
- E) 遊脚相でのトゥクリアランスを保ちます。
- F) 近位関節を支持し安定させます。
- G) 患者様に合わせカスタマイズできます。

義肢装具士の技術により正常の歩行パターンに近づけるようカスタマイズすることができます。ゴールは歩行においての対称性だけでなく、運動連鎖における関節や軟部組織への悪影響を取り除くことも含まれます。

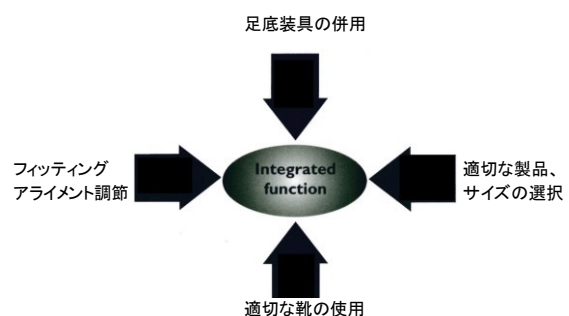
個々の患者様の身体機能、運動能力を評価することは、カスタマイズした装具を納品する上で大変重要です。

本装具を最良の状態で使用して頂くために、装具使用前から使用後までの患者様を評価する幾つかのステップがあります。



患者様に応じて4つの構成からカスタマイズを行います。

良好な結果を得るためにも、適切な製品・サイズ選択、適切な靴の使用、足底装具の併用、フィッティング加工、アライメント調節が必要となります。



患者様の評価

最良の結果を導くためにも、本書に従った適合納品を行って下さい。

患者様の情報

通常必要となる基本情報に加え、足の形状、サイズ、処方対応した修正ポイント、特異点等の情報を収集し記録して下さい。

キディグイト/キディロッカーを利用した場合

特にキディグイト、キディロッカーを使用する小児のケースでは、成長により身体条件の変化を注意深く観察下さい。装具納品後 2 週間後に経過観察を行い、その後も定期的な変化の確認を行って下さい(成長のスピードや痙性度合の変化、手術・ボトックスを受けた場合の影響等)。

非荷重時の身体機能評価

- 踵骨の可動域と内反時にロック、外反時にフリーになるかをご確認下さい。
- 距骨下関節を中間位にしたときに回内、回外が見られるか確認して下さい。
- 強剛母趾は無視して下さい（併用する足底装具で対応して下さい）。
- 胼胝等がないか確認して下さい。
- その他気になる点を記録して下さい。



裸足歩行

裸足歩行の評価は非荷重時の身体機能評価と合わせて必要な確認事項です。

- 歩行時の踵骨の可動域は非荷重時に評価した身体機能を反映していますか？
- 中足部に安定性はありますか？
- 歩行中の踵離床は正常なタイミングでしょうか？
- 膝や股関節等、近位関節の不安定や代償歩行は見られますか？

靴（現在使用している装具）を装着しての歩行評価

靴もしくは現在使用している装具の支持性を確認します。

- 靴もしくは装具装着により踵離床のタイミングが変化しますか？
- 靴もしくは装具装着により近位関節の安定性や代償動作は変化しますか？
- 立脚期の時間が左右で異なりますか？また跛行は見られますか？

歩行能力

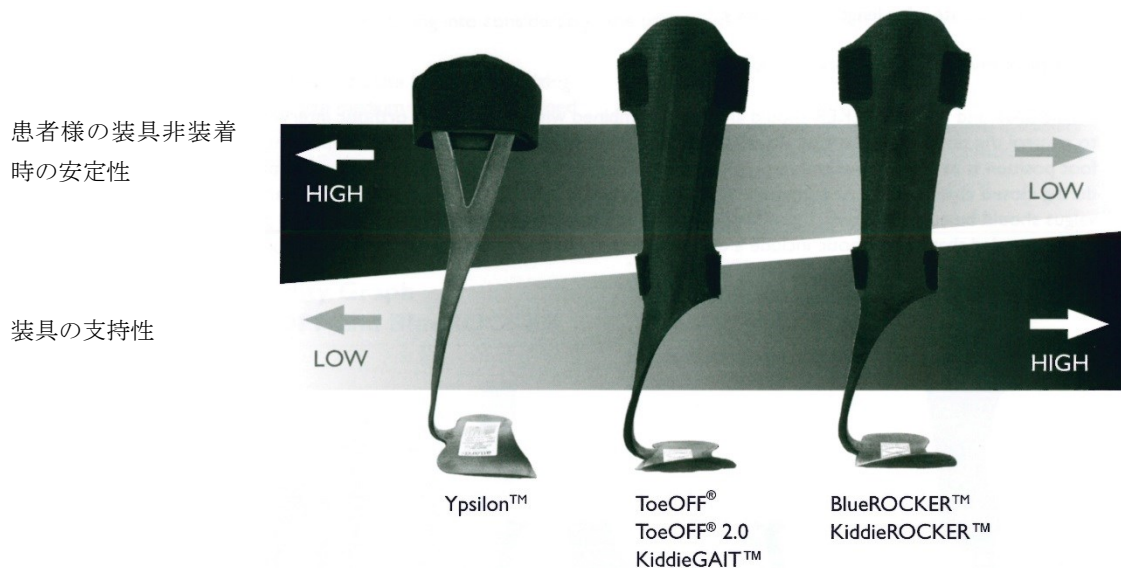
靴もしくは現在使用している装具を装着して歩行能力のデータを収集し、本装具を使用した後に同様にデータを収集し比較して下さい。18 ページをご参考にして下さい。

STEP1

製品の選択方法

外見上イプシロン、トーオフ、ブルーロッカー、キディゲイト、キディロッカーは大変似ておりますが、対象の患者様が異なります。以下情報に従い患者様に適した製品を選択して下さい。

患者様の装具非装着時の安定性と装具の支持性の相関チャート



それぞれの構造特長

イプシロン	トーオフ キディゲイト	ブルーロッカー キディロッカー
軽度の下垂足 自然な足関節動作が可能です。 長い支柱構造 支柱が大きく撓みます。 踵接地時の衝撃をやさしく吸収します。 支柱クリアランス 足背のクリアランスを保ったデザイン。 Y 字形状 脛骨稜でのクリアランスを保ち、良好なフィッティングを得やすい。	中程度の下垂足 中程度の下垂足と不安定な足関節をサポートします。 下肢前面を覆うシェル 脛骨を安定させ下肢をコントロールします。 外側支柱 外側支柱で不安定な足関節のコントロールを行います。	中から高程度の下垂足 複合的要因による下垂足、足関節および近位関節の不安定をサポートします。 下肢前面を覆うシェル 脛骨を安定させ下肢をコントロールします。 外側支柱 外側支柱で不安定な足関節のコントロールを行います。

キディゲイト、キディロッカーをご利用時のインターフェース/併用装具について

下垂足の場合（回内、回外、痙性、内反尖足、固有感覚不全、足関節不安定等が無い場合）

必ずフットプレートと足の間にインターフェースとなる素材をご利用ください。フットプレートを覆う足底板や中敷等をご利用下さい。また、その場合、装具を利用しない脚との脚長差がでないようご確認下さい。

下垂足以外の症状が含まれる場合

キディゲイト、キディロッカーは必ず足のポジションを整える、またはコントロールするための足底装具と併用して下さい。正常歩行に近づけるためにも、非荷重時では足関節が中間位になり、荷重時ではコントロールされた回内が生じることが重要です。回内、回外、内反足、外反足は併用する足底装具によってポジションをコントロールして下さい。痙性がある場合は、踵接地を可能とするために深いヒールカップを含む足底装具を併用します。



併用装具ガイド

痙性、尖足、足関節不安定	既製足底装具	カスタムメイド足底装具	UCBL	SMO
軽度	✓	✓		
軽度+固有感覚不全				✓
中程度			✓	
中程度+固有感覚不全				✓
高度				✓

STEP2

サイズの選択方法

患者様のニーズによって

トーオフファミリーは反発力の小さいイプシロンから反発力の大きい(硬い)ブルーロッカー、キディロッカーまでのラインナップが存在します。また各製品にはサイズの種類があり、小さいサイズを選択すると反発力は小さく、大きいサイズを選択すると反発力は大きくなります。より柔軟性を求めるのであれば小さいサイズを選択します。このようにサイズにより反発力、制動力が異なります。7-10 ページをご覧くださいの上、サイズ選択して下さい。痙性、安定性、バランス、必要な支持性、患者様の活動度、生活様式等を考慮の上、個々の患者様に最良の製品を選択して下さい。

例えば、足長とフットプレートの長さによって合ったサイズ選択を行うことも可能です(19 ページ) が、患者様の身体状態により前後のサイズを選択する必要があるケースもございます。

近位関節の不安定

近位関節に不安定がある場合は、より大きなサポートが必要になります。

- 大腿四頭筋の筋力低下による膝折れ。
- ヒラメ筋の筋力低下による膝伸展遅れ。
- 腓腹筋の筋力低下による膝過伸展。

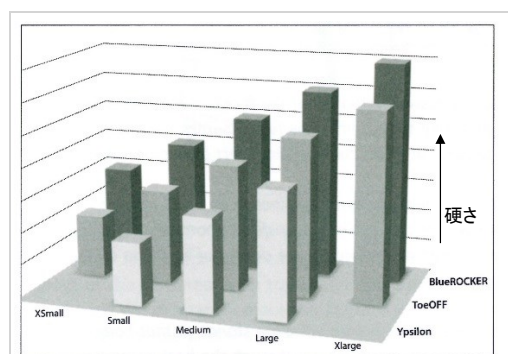
これらのケースでトーオフ、キディゲイトを選択された時は、1つ大きめのサイズ選択をするかブルーロッカー、キディロッカーの選択の可能性も考慮して下さい。

足長によるサイズ選択

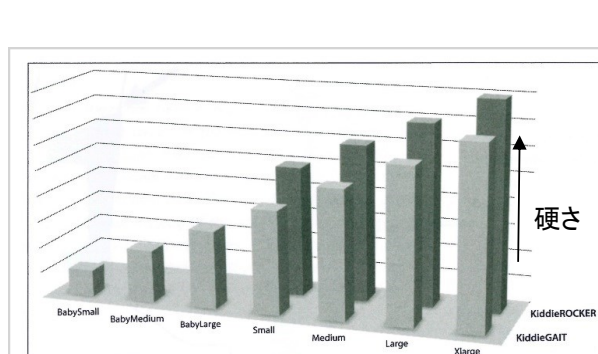
足長によるサイズ選択表が 19 ページにありますが、患者様の状況により前後のサイズを選択するケースもございます。

製品の硬さグラフ (サイズ別)

イプシロン、トーオフ、ブルーロッカー



キディゲイト、キディロッカー



足関節背屈筋低下

反発力のあまり大きくない製品を必要とする患者様はイプシロン、トーオフ、キディゲイト等を選択します。これら製品を選択する患者様は歩幅を大きくするためのサポートは不要なケースが多く、足関節の可動域を維持することが重要となります。より硬いブルーロッカー、キディロッカーをご使用になる前に再度患者様の適応をご確認下さい。

患者様の歩行の様子を観察し、足関節に十分安定性があり、より大きい可動域が必要な場合は1つ小さいサイズを選択する事により良好な適合を得ることができます。

背屈筋と底屈筋低下

反発力のあるトーオフ、ブルーロッカー、キディロッカーを選択します。患者様は膝・股関節の可動域を維持するためにも歩幅を大きく保つサポートが必要です。ブルーロッカー、キディロッカーもしくは、1ランク大きいサイズのトーオフ、キディゲイトを選択する事が必要です。

痙性

本装具で痙性をコントロールすることはできません。しかし、足底装具等を併用することにより利用可能となるケースも多くあります。

痙性が軽度で、UCBL や SMO といった足底装具と併用することにより足関節をコントロールすることができれば、イプシロン、トーオフ、キディゲイトがご利用可能です。

痙性が中度で、UCBL や SMO といった足底装具と併用することにより足関節をコントロールすることができれば、ブルーロッカー、キディロッカーがご利用可能です。

痙性レベル評価

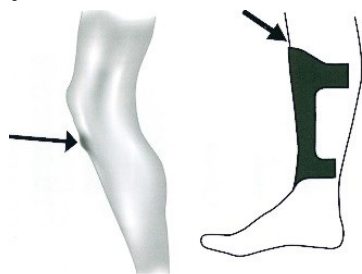
軽度：前足部に過度の回外が無く、安定した踵骨からの荷重ができ、中足骨頭へと体重移動ができる。

中度：踵接地時に踵骨が過度の回外位の状態になるが、立脚中期には回内し、正常に近い状態で前足部を通り体重移動ができる。

高度：立脚期でも尖足位である。立脚期に踵または内側中足骨頭での荷重が小さいか無い状態で、前足部外側で体重を保持している。

高さ調節

本装具の上縁が脛骨粗面に当たってしまう場合は、本装具近位部を若干トリミングすることが可能です。ハサミやグラインダーでトリミングした後はエッジ部で怪我をしないよう処理して下さい。



STEP3

足底装具との併用例

良好な歩行、製品の耐久性を持続させるためにも歩行周期の踵骨の動きができるだけ自然な動きになるよう足部の位置を修正します。距骨下関節を中間位に保つ必要はなく、立脚相では外反位に、遊脚相では内反位を許すことが重要です。

過度の回内は足関節が必要以上に屈曲位になり脛骨は回旋し、本装具の外側支柱にストレスをかける原因となります。

フットプレート上面には直接足部が触れないよう必ず表面材や足底装具等をご使用ください。

回内に対して

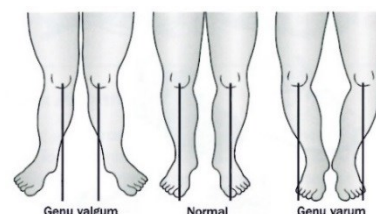
他の足部変形が無ければ回内モーメントを減少するために、踵骨部で内側を高くするようにフットプレートを調節します。もし足部に変形が見られる場合は、装着者に合わせた足底装具を製作することを推奨します。



注意：もし患者様が後方支柱式の **AFO** を使用した場合、中足部の異常可動性に注意して下さい。なぜなら背屈は踵骨の外反と連動しており、後方支柱式の **AFO** は踵骨の外反を制限するためです。結果として背屈は足関節ではなく、中足部で起こり、中足部の異常可動性の原因となることがあります。このような場合は足部のアライメントを整えるために踵補高や中足部を覆う装具との併用が推奨されます。

前額面のアライメント

- ・平行棒を使ってアライメントを確認して下さい。
- ・コルク等で足底板と本装具の足底面を整えて下さい。



回外に対して

他の足部変形が無ければ回内モーメントを増加するために外側前方を高くするようにフットプレートを調節します。この際、母趾の屈曲と前足部の外反がある場合や、更なる足部変形が見られる場合は、前足部で外側部を高くして第一足趾を切り取った足底装具を本装具のフットプレートに取付ける事を推奨します。



STEP4

靴の選択方法と踵の高さ



靴の選択

トーオフ製品は靴と一緒に装着することを前提としております。適切な靴の選択は大変重要です。以下に挙げる構成の靴を選択して下さい。

- 後足部のコントロールに適した硬いヒールカウンターのある靴
- 足部と本装具がしっかりと固定される靴
- 重心移動がスムーズに行えるロッカーソールの靴
- 中足部のきつさを調整出来る靴
- 濡れた地面などで滑る危険性を最小限に抑えるゴム底の靴
- 本装具のフットプレートを加工する場合に適する中敷の取り外し可能な靴
- 装着時に圧迫を受けない高さがある靴

靴に合わせた加工

支柱の前後に空間がある場合があります。

この空間によって本製品の支柱部分に過度のストレスを与えてしまうケースがあります。

STEP A

靴の踵の高さを計測して下さい。



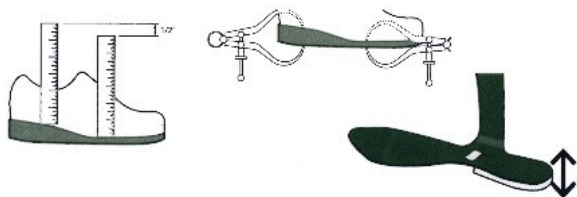
STEP B

本製品の踵の差高と靴の差高を合わせるために、コルクや硬い素材を本装具のフットプレート裏に貼りつけ加工して下さい。

例) 靴の踵の高さが 19mm、MP の高さが 6.3mm の場合、この靴の踵の差高は 12.7mm と言えます。もし選択したトーオフの踵の高さが 16mm であった場合、トーオフのフットプレート裏に 3.2mm の高さ加工を施します。

踵の踵高

適切な脛骨アライメントを保つことが重要です。トーオフ製品ラインナップ毎に踵の差高が異なります。ご利用になる靴に合わせた加工が必要です。



靴に合わせカスタマイズ加工した後、異なる靴をご利用の時は靴と装具の踵の差高が合っているかを必ず確認するようご指導下さい。それぞれの差高が合っていないと歩行時の不安定性や膝伸展モーメントが無くなり、また装具の破損の原因にもつながります。

STEP5

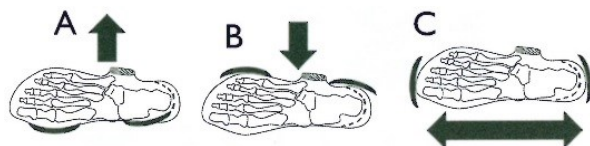
適切なアライメント

脛骨に対する本製品のアライメントは義足のアライメントと同様に重要です。適切なアライメントは快適さと歩行パターンに影響します。また、これにより中足部に位置する外側支柱の適切な位置も確定されます。適切なアライメントを確保することにより理想的な歩行を実現し、また装具の耐久性向上にもつながります。

外側支柱のアライメント

本製品の外側支柱は第5中足骨頭の後方に位置し、外側から立ち上がる支柱が脛骨に当たらないように配置して下さい。フットプレートを前後へスライドさせることにより調節が可能です。

- A) フットプレートの内側の縁を継ぎ足し、装具を外側方向にシフトし第5中足骨への圧を除けます
- B) 第5中足骨と外側支柱に間が空き過ぎの場合は、内側方向へシフトします
- C) 脛骨に圧痛を感じる時はフットプレートの前後の位置を調節します



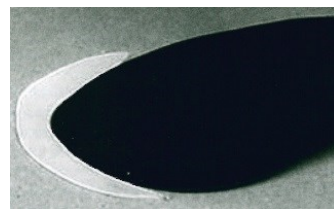
脛骨のアライメント

脛骨稜に接する本装具前面のシェルが全体に同じ圧になることが目安です。鉛直線が膝軸の後ろを通り立方骨付近で床に落ちるようアライメント調節します。フットプレートを前後にスライドすることにより前面のシェルが脛骨稜全体に同じ圧で接するよう配置して下さい。フットプレートの延長が必要になるケースもあります。以下のフットプレートの長さ調節を参考にして下さい。



フットプレートの長さ調節

フットプレートを短くするには、適切な長さにカットもしくは削って下さい。鋭角なエッジは確実に処理して下さい。柔らかい革等でフットプレートをカバーして下さい。フットプレートを長くするには、1.5mm 厚のプラスチックを三日月形に切り靴の形状とフットプレートに合うよう先端に継ぎ足します。革などで完全に一体になるようフットプレートを覆います。この時、靴の中で前後にズレが無いようにすることが重要です。



プラスチック装具、SMO、UCBL 併用

カーボン製である本製品のフットプレートにはプラスチック素材が接着できませんので、フットプレート上面を滑り止め素材で覆って下さい。



STEP6

近位関節のコントロール

膝伸展方向への作用

膝伸展モーメントを調節することができます。膝伸展を促進、屈曲方向への力を減少させるには踵の高さを低くして下さい。これにより本装具の前面シェルが後方へ傾き歩行周期において膝の早期伸展を促します。作業は **1.6mm** ずつ踵の高さを低くして下さい。骨盤レベルで左右が同じ高さになるよう調節して下さい。

膝屈曲方向への作用

膝の屈曲を促し、伸展モーメントが働くタイミングを遅らせるためには、踵の高さを高くして下さい。これにより本装具の前面シェルが前方へ傾き膝屈曲を促します。作業は **1.6mm** ずつウェッジを取付け踵の高さを高くして下さい。骨盤レベルで左右が同じ高さになるよう調節して下さい。

注意：これらの調整は靴の選択にも影響するのでご注意下さい。

STEP7

適合

注意！：本製品は熱加工ができません。熱を加えることによりカーボンの剥離や耐久性に影響を及ぼしますので、絶対に行わないで下さい。

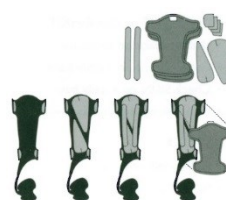
脛骨への圧

トーオフ、ブルーロッカー、キディゲイト、キディロッカーは常に除圧パッドを貼り付けた状態で患者様へ納品して下さい。図のように脛骨稜を開けてパッドを貼って下さい。



ソフトキット

専用のパッドセットを使用して下さい。



足背の圧痛

外側支柱の内側にパッドを貼りつけます。もしくは 13 ページの“外側支柱のアライメント”にあるように、装具を外側にシフトすることにより圧を除けます。



カフバンドでの圧痛

若干の圧痛にはカフベルトの取付け角度を調整するか、もしくはカフベルトに 3mm の柔らかいパッドを取付けて下さい。このパッドはカフベルトより少し大きめの幅にして下さい。もし痛みが変わらない場合は再度 13 ページのアライメントを確認して下さい。



イプシロン用パッド

イプシロン用パッドは図のように脛骨稜部で装具とパッドに 5mm 程の間が空くようパッドを取付けて下さい。不快感があるようでしたら、若干パッドを左右にずらして下さい。洗濯交換で付け外しをされる患者様にもご指導下さい。



靴の内部の破損

足が直接本装具のフットプレートに触れないようにフットプレート上面には表面材を貼りつけて下さい。本装具は大変薄いカーボン製の為、装具装着用に大きいサイズの靴を選択する必要がありますが、靴を傷つけたり破損する原因にもなりますので、薄い革で足底部をカバーしたり周囲部に保護テープを貼りつけて下さい。外側支柱で靴を傷つけないようモールスキンを貼って下さい。



STEP8

患者様へのご指導

本装具を問題なくご利用頂く上で、使用方法を患者様に正しくご理解いただくことは大変重要です。製品に同封される取扱説明書（ユーザー用）の内容を必ず患者様と一緒にご確認ください。

- 椅子から立ち上がる時は肘掛けで体重を支持するように立ち上がって下さい。
 - 必ず靴下を履いて下さい。
 - 専用のソフトキットをご使用下さい。
 - フットプレートの上に表面材を敷いて下さい。
 - 毎日装具に異常が無いか点検して下さい。
 - 毎日装具に触れる肌に異常が無いか確認して下さい。
 - 基本的に靴と一緒にご利用下さい。
-
- 階段でつま先歩きをしないで下さい。
 - 深くしゃがみこまないで下さい。

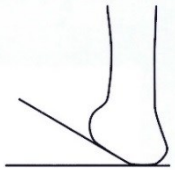
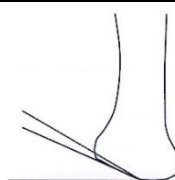
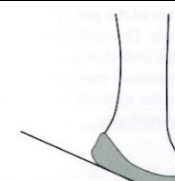
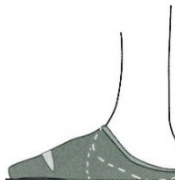
糖尿病足病変

神経系疾患による下垂足の他に糖尿病足病変の患者様に使用されるケースもございます。その場合は、装具が接する足全体に均一の圧がかかるようご確認ください。また装具の角で肌を傷つけないよう確実に処理して下さい。

前足部切断

前足部切断者へブルーロッカーを使用

足趾切断や中足骨遠位部の切断にはカーボンファイバー製フットプレートのみがあれば義足の一部品として利用が可能です。もし切断部位が中足骨近位部もしくは、リスフラン、ショパール切断等になる場合は、フットプレートだけでなく、前面にシェルを備えた本製品のデザインが正常歩行をサポートします。断端部との良好な適合ができるようプラスターゾーテ等の素材を使用しカスタムメイドの前足部部分を製作します。

1. 荷重をかけたときの矢状面での可動域を確認します。矢状面での正常な踵骨の角度は約 40 度になります。	 矢状面
2. この 40 度もしくは少なくとも 10 度背屈した状態で採型を行います。この採型角度により歩行時足関節の機能的な可動域を保つ事が出来ます。40 度の角度が取れない場合、健足との間に脚長差があるかもしれません。	
3. 採型した時の角度が取れるようソケットを製作します。	
4. 良好な圧の分散ができるよう支持部を製作します。踵骨が遊脚相に 20 度内反、立脚相に 10 度外反できるように支持部を製作します。	
5. 健足の足と同じ形状になるよう前足部部分を製作し、支持部に取付けます。	
6. 推進期に支持部と前足部部分に圧がかからないように、前足部にブレークポイントを作ります。	
7. 完成後、アライメントに注意しながらブルーロッカーに接着します。前面シェルに均一に圧がかかるよう注意して下さい。	

装着後の歩行評価

装具装着後の歩行評価は装具の効果を確認するのに大変重要です。また足だけでなく全身に効果を及ぼしているかを調べる必要もあります。患者様が装具を正しく使用できているかを確認するためにも装着後の確認は重要です。

装具装着前と装着時の歩行の違いを観察して下さい。

踵離床のタイミングは標準的ですか？もしくは遅れていますか？

もしタイミングが遅れている場合は、もう少し中足部のしっかりした靴を検討下さい。

近位関節のバランスが良くなりましたか？代償動作は無くなりましたか？

前額面や矢状面でのバランスを取るためのポジション修正を確認下さい。

同様のチェックデータを定期的に記録して下さい。データを比較し装着後の効果を確認して下さい。

客観的データの収集

10mの直線距離とストップウォッチを使用しデータを収集して下さい（最低10mの距離が必要です）。

患者様に歩行してもらい、10mの直線距離を歩く”歩数”と”秒数”を計測して下さい。

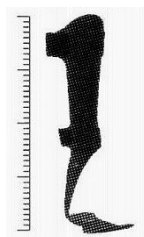
速さ（1秒間に進む速さ）＝10m / 秒数

ケーデンス（1秒間の歩数）＝歩数 / 秒数

歩幅＝10m / 歩数

製品ラインナップとサイズ表

サイズ表はサイズ選択の際の目安です。患者様の状態、条件により前後のサイズを選択する必要がある場合がございます。



イプシロン

サイズ	構造的高さ	フットプレートの長さ	踵の差高
S	330mm	230mm	10mm
M	340mm	245mm	10mm
L	350mm	270mm	12mm

トーオフ、ブルーロッカー

サイズ	構造的高さ	フットプレートの長さ	踵の差高
XS	360mm	210mm	12mm
S	380mm	230mm	12mm
M	405mm	245mm	15mm
L	430mm	270mm	16mm
XL	430mm	285mm	16mm

トーオフショート（日本人タイプ）

サイズ	構造的高さ	フットプレートの長さ	踵の差高
S	295mm	215mm	7mm
M	320mm	235mm	7mm
L	340mm	255mm	7mm

キディグイト、キディロッカー

サイズ	構造的高さ	フットプレートの長さ	踵の差高
ベビーS	150mm	110mm	7mm
ベビーM	180mm	125mm	7mm
ベビーL	200mm	140mm	8mm
S *	220mm	160mm	8mm
M *	257mm	180mm	9mm
L *	295mm	200mm	9mm
XL *	315mm	210mm	9mm

*キディロッカーは S, M, L, XL サイズのみ



輸入販売元

株式会社 田沢製作所

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-35-28 メゾンドール本郷 2F

マーケティング部直通ダイヤル TEL.03-3812-6481 FAX.03-5804-8595